

| | | | |
|--------------|--------------|------------|------|
| 授業科目名 | 心理学(2000015) | | |
| 時間割名 | 心理学(23105) | | |
| 時間割担当 | 野口智草 | | |
| 実施期 | 後期 | 単位数 | 2 選択 |
| 曜日・時限 | 火・3 | | |

授業の目標・概要

この授業では、現在までに蓄積されてきた科学的な心理学の主要な知識と応用の領域について、初歩的な知識を身につけます。心理学を初めて学ぶ学生の中には、もしかすると「心理学を学ぶと人の頭の中の考えを読んだりできるのかな？」と考える人がいるかもしれません。残念なことに、心理学は直接に人の心を「読む」役には立ちません。しかし、心の働きを科学の目で眺めることによって、「人の心にはこういう特徴があるのか」「人の心はこのようにして変化するのか」という驚きを体験することができるでしょう。自分自身の心の働きや行動を客観的に見直すことによって、他の人びとの心の働きも見えてきます。

学習の到達目標

この授業には2つの大きな目標があります。第1の目標は現在の心理学を形成してきた個々の重要な研究についてその概要と、それが意味することがらについて理解をすることです。第2の目標は、これらの心理学知識の応用例について知ることです。もし科学的な心理学に興味を湧いたら、ぜひ次のステップに進んで、より高度な心理学の知識と、心理学の方法論を学んでください。

授業方法・形式

パワーポイントを使った講義形式です。授業の最後に要点に関する「復習問題」を宿題として出題し、次週の最初に答え合わせ・簡単な解説を行います。不正解であった問題についてはしっかり復習してください。また、授業内に6回課題を行います。実際に体験することで心理学の知識を深めることを目的としています。

授業計画

授業計画(1)

- 第1回 授業の計画について説明する。また、教科書の第1章に基づき、心理学のごくおおまかな歴史を紹介する。これによって、人間がみずからの「心」について系統的に知識を求めようとしてきたことについて理解することができる。
- 第2回 教科書の第2章に基づき、人が外界の情報を取得する感覚の神経メカニズムについて講義する。いわゆる五感について、その生理学的、神経学的基礎の初歩について理解することができる。
- 第3回 教科書の第3章に基づき、主として視覚の領域において、知覚のメカニズムについて講義する。これにより、われわれの知覚が必ずしも外界の刺激のありのままの認識ではないことを理解することができる。
- 第4回 教科書の第4章に基づき、学習のメカニズムについて講義する。古典的条件づけとオペラント条件づけについてその基本を理解することができ、また臨床的応用と認知心理学との関連についても理解することができる。
- 第5回 教科書の第5章に基づき、記憶のメカニズムについて講義する。エビングハウスの先駆的研究から、現代の認知心理学的記憶理論までを概説する。これにより、心理学における実証的研究の重要性が理解できる。
- 第6回 教科書の第6章に基づき、言語と思考について講義する。言語を要しない思考について述べ、問題解決や推理について概説する。これにより、われわれ言語がもつ特性、また思考において陥りやすい間違いが存在することを理解することができる。
- 第7回 教科書の第7章に基づき、動機づけと感情について講義する。生理的動機づけ、社会的動機づけについて説明する。また、感情が持つ適応的な機能と、コミュニケーション機能について説明する。われわれの行動の多くの部分が生物学的なメカニズムによっていることを理解することができる。
- 第8回 教科書の第8章に基づき、発達の心理学について概要を講義する。新生児期から老年期に至る発達の過程について理解することができる。また、臨床心理学的観点から発達障害の初歩について理解することができる。
- 第9回 教科書の第9章に基づき、パーソナリティと心理検査について講義する。複数の心理検査の特徴を把握し、アセスメントの意義について理解することができる。

成績評価の基準

授業計画（2）

第10回 教科書の第10章に基づき、社会心理学の基礎について講義する。対人認知、態度、および集団行動について初歩的な知識を理解することができる。

第11回 教科書の第11章に基づき、コミュニケーションについて講義する。非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーションについて概説する。コミュニケーションの機能の初歩について理解することができる。第12回 教科書の第12章に基づき、食行動の重要性について講義する。食行動が栄養補給機能のみならず、社会集団を成立させる機能をもつことについて理解する。

第13回 教科書の第13章に基づき、臨床心理学の基礎について講義する。とりわけ青年期にある大学初年次の学生の心理的適応の問題について、その概略を理解する。

第14回 教科書の第14章に基づき、健康とストレスについて講義する。身体の健康がこころの健康の維持にとって重要であることを理解する。

第15回 教科書の第15章に基づき、人の「心」と脳神経系の活動の関連について講義する。心理的諸過程が神経系のメカニズムによって担われていることについて初歩的な事実が理解できる。

成績評価の基準

授業内課題(6回実施予定)および最終試験の評点によって成績をつける。配点比率は、授業内課題が3割、最終試験が7割とし、この合計点が60点未満の場合、不合格とする。ただし、15回の授業のうち少なくとも12回の出席がない場合には最終試験の受験資格を与えない。授業登録者のおおむね30%が優、10%が秀に相当するように配点する。良と可については特に比率は定めない。

授業時間外の課題

基本的に教科書の構成に従って1回の授業で1章ずつ進みます。初回の授業を除き、次回授業で取り扱うテーマについて、教科書の章を読んでから授業に臨むこと。授業終了後は、授業最後に毎回出題する「復習問題」を宿題として解き、自身の理解度を把握してください。理解が足りない場合には、再度その章を読み、各自で復習をして下さい。

メッセージ

私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。守れない学生には、即刻退席してもらいます。

教材・教科書

『心理学概論 基礎から臨床心理学まで』（ふくろう出版）

参考書